



一人一人が活躍する学校

校長 伊藤 栄司

春陽麗和の好季節を迎えました。今年度も64名の新一年生を迎えて令和8年度の教育活動が始まりました。新入学・進級を迎えられた皆さん、そして保護者の皆様、誠におめでとうございます。全校350名の子どもたちが、それぞれの思いを胸に新たな一步を踏み出しました。

一人一人が HERO

さて、本校では今年度の教育の柱として「一人一人が HERO」を掲げました。HEROとは、心理学で語られる Hope (希望)・Efficacy (自己効力感)・Resilience (回復力)・Optimism (楽観性)の頭文字をとった概念です。昨年度から大切にしてきた、子どもたちのウェルビーイングを支える重要な力と考えています。これは特別な才能ではなく、日々の学校生活の中で育まれていく一人一人がもつ「強み」です。

非認知能力ともいわれ、他にも「やり抜く力」「共感性」「自制心」「協働する力」など多くの要素があります。その中でも HERO に示される4つの力は、子どもたちが日々の学習や生活でつまずいたときに立ち上がるための基盤であり、未来に向かって歩む原動力となる特に重要な力であると考えています。

日々の生活の中で身に付く大切な力

昨年度、本校では学習や行事、日常の生活の中で、子どもたちが友達と支え合いながら挑戦し、小さな成功を積み重ねていく姿が多く見られました。目標に向かって挑戦し成し遂げていく過程こそが、子どもたちにとっての「HEROになる経験」といえます。今年度は、主体的に取り組む力や振り返って次につなげる力など、さらに意図的に支え子どもたち一人一人が自分の中にある力に気づき発揮できる場を増やしていきます。

例えば、

- ・活動の中に小さな楽しみや目標を見つける。(希望)
- ・自分ならできる、きっとできると信じる。(自己効力感)
- ・うまくいかなくても、やり直す勇気をもつ。(回復力)
- ・気持ちを切り替え「次はこうしてみよう」とチャレンジできる。(楽観性)

といった姿は、どの子にも必ず芽生えます。しかも、大人が教え込むのではなく体験の積み重ねによって子どもたちの内面に育ちます。

友達と協力して一つのことを成し遂げた体験や、自然体験活動、学級会での対話、失敗しても仲間を励まされて再挑戦した経験など、学校生活そのものが「HEROになる経験」といえます。

ウェルビーイングの向上をめざして

また、授業や特別活動、行事の中で、子どもたちが「自分で考え、行動し、振り返る」経験を大切にしていきます。「できた」「頑張った」「支え合えた」といった日々の小さな成功に光を当て、自分の成長を実感できるよう支援していきます。これらの積み重ねが、未来への確かな自信となり、子どもたちのウェルビーイングの向上につながると考えています。

今、社会では知識や技能だけでなく、人とつながり、自分らしく生きるための力が求められています。「自分はできる」「やってみたい」と感じる力は生涯の土台になります。全ての学びの基礎となる力の育成を大切にしながら誰もが HERO として輝ける学校をめざします。